

日本語学習における学習者の BELIEFS について

— 非日本語専攻の中国人大学生を対象に —

李 友敏

要 旨

学習についての BELIEFS は、学習者の具体的な学習活動を支える心的態度を指す。BELIEFS を客観的に把握することは、教師にとっては、学習者の思っていることをよりよく把握でき、学習者にとっては、自己反省や学習の改善ができる。近年来、日本語を非専攻とする日本語学習者が急増している。彼らの BELIEFS を把握することによって、より効果のある教授法の開発にも役立つのではないかと思う。本稿では、非日本語専攻の中国人大学生に対し、BALLI を利用して、BELIEFS の調査を行い、日本語専攻の学習者の BELIEFS と比較し、非日本語専攻の学習者の BELIEFS の傾向を明らかにしようとする。

【キーワード】

BELIEFS 非日本語専攻 BALLI 日本語専攻

1. はじめに

学習者はよく「日本語は日本で学ぶのが一番いい」というような意識や考え方を持って日本語学習に臨んでいる。このような具体的な学習活動を支える心的態度を BELIEFS と呼ぶ(斉藤 1996)。橋本(1993)によると、学習者の言語学習に対する BELIEFS を客観的に把握することは、教師側にとっては、学習者のストラテジー・学習行動と、それらを支えている心的態度との関係を明らかにすることに役立つ。一方、学習者自身にとっては、自分の学習行動を客観的に把握し、学習の改善がしやすくなるという利点もある。

近年来、日本語学習は中国でブームになり、特に日本語を非専攻とする学習者が急増しているそうである。したがって、日本語専攻の学習者だけでなく、日本語を非専攻とする学習者の日本語学習に対する意識や考え方を大事にしなければならない。

本稿は日本語を非専攻とする学習者の日本語学習に対する BELIEFS を明らかにするために、北京のいくつかの大学^{注1}において、日本語学習の BELIEFS について意識調査を行うことによって進めていきたい。

2. 先行研究

2.1 BELIEFS の定義について

橋本(1993)では、BELIEFS とは、ストラテジーを含めて、具体的な学習行動を、その背後で支える心的態度や信念のことを言う。

日本語学習者のBELIEFSに関する研究で、よく引用されるのは下記のHorwitz(1987)である。そこから、BELIEFSという概念は、言語学習観、信念、信条、確信、ピルーフ、ピルーフスなどと訳されている(片桐

2005)。本稿では、英語の大文字のまま「BELIEFS」で表記したいと思う。

2.2 先行論文のまとめ

2.2.1 Horwitz(1987)

Horwitz(1987)は5種類(言語学習に対する適性/言語学習の難易度/言語学習の性質/コミュニケーション・ストラテジー/言語学習の動機、計35項目)からなるBALLIを作り、成人ESL(英語学習者)の調査を行った。学習者は言語学習に関して様々なBELIEFSを持っていること、そのBELIEFSの違いによって、学習者の教室活動への取り組みやストラテジー使用に差が見られること、学習者のBELIEFSを把握することが重要であること、などを指摘している。

2.2.2 橋本(1993)

橋本(1993)はHorwitz(1987)のBALLIに27項目を追加しアンケートを実施した。調査後、学習者によるBELIEFSについてのBALLI討論を行い、学習に悪影響を及ぼすBELIEFSを修正できる可能性があり、それがまた学習ストラテジーに影響を与えると述べている。

2.2.3 板井(1997)

板井(1997)は、上海復旦大学日本語科の学生37名を対象者とし、橋本(1993)のBALLIアンケートに、更に「教師への要求」「媒介語」の2領域を追加した中国語版BALLIを用いた。主に、1)学年1年次と学年3年次の学習者とはBELIEFSの違い、2)教師と学習者の間にBELIEFSのズレ、3)成績上位者と成績下位者の間にBELIEFSの差、という3つの視点に基づき分析を行った。その結果、中国人学習者が受け入れ

やすい教授法や取り組みやすい教室活動が明らかになったと述べている。

2.2.4 板井（1999）

上記の板井（1997）のアンケート調査における問題点を検討し直すために、板井（1999）は香港城市大学で日本語を専攻とする118名の学生を対象に調査を行い、その調査結果を、1）言語学習の性質、2）コミュニケーション・ストラテジー、3）教師への要求、4）媒介語、の4領域にわたって、板井（1997）と比較した。その結果、いくつかの項目において相違が見られた。特に「教師への要求」という領域では、かなりの違いが見られたとのことである。

3. 研究計画

3.1 先行研究の残された課題

非日本語専攻学習者を一つの独特のグループにして調査を行ったのは、筆者の知る限りでは、板井（1999）だけである。

板井（1999）は、上海復旦大学日本語科の学生との比較を通し、香港城市大学商業及び管理学系、国際貿易専攻の学生のBELIEFSの傾向を明らかにした。しかし、板井（1999、pp.175）は、上記の二回の調査が「実施地も学習者の専攻も異なるので、データの結果を中国人学習者という一つのカテゴリーでまとめるのは少し無理があったかもしれない」と述べている。ここから、学習者のBELIEFSが地域によって違う可能性があることが伺える。したがって、今回の調査対象はともに北京の大学の学習者にする。それから、非専攻日本語学習者の主専攻と学習背景が非常に多様なので、今回はできるだけその点についても触れたいと思う。

また、よく「女性は男性より外国語学習が得意だ」という言い方を耳にする。今回の調査では、女子学生と男子学生は日本語学習のBELIEFSにおいて、一体どのような差が存在しているかも究明したいと思う。

3.2 研究課題

- 1）日本語を専攻とする学習者と日本語専攻の学習者との間に、言語学習のBELIEFSに違いがあるか。
- 2）日本語学習について、男性と女性の間にBELIEFSの差があるか。

3.3 調査概要

3.3.1 調査対象

- 1）京の非日本語専攻大学生
- 2）北京の日本語専攻の大学生

3.3.2 調査ツール

BALLI（Beliefs About Language Learning Inventories）を使用して調査したい。BALLI使用に関しては、回答に不安定性や不確実性があると指摘している先行研究もあるが、ある特定のグループのBELIEFSの傾向を調査するツールとしては十分に機能していると思われる。したがって、本調査でも、またBALLI調査紙を使用したい。

3.3.3 調査表（付表省略）について

本稿で用いる調査表は、1）日本語学習の性質、2）学習ストラテジー、3）教師の役割、4）日本語学習の動機、5）クラス活動、という5領域（計36項目）からなる日本語版BALLIである。調査対象は中国人なので、質問により正確な理解を求めるために、各項目の下に中国語訳をつけてある。回答方法は、各々の項目に対して、1）強く賛成、2）賛成、3）どちらでもない、4）不賛成、5）強く不賛成、という五つの選択肢の中から一つを選んで答える。

調査項目については、主に板井（1997）のBALLIアンケート^{注2}を参考にしたもので、その他、若井・岩澤（2004）から1項目（質問番号8）を採用し、教師の役割、日本語学習の動機、学習ストラテジーに関する7項目（質問番号5,9,10,11,25,32,34）を筆者が加えた。

注

1. 具体的には、いくつかの、どの大学で調査を行うかまだ決めていない。
2. 板井（1997）は主に言語学習について調査を行ったので、「言語」あるいは「外国語」という表現を使っていた。本稿は日本語学習についてのBELIEFSを調査するために、いくつかのところを「日本語」に変更した。それから、板井（1997）の中の3項目（質問番号4、16、17）に一部手を加えた。

参考文献

1. 板井美佐（1997）「言語学習についての中国人学習者のBELIEFS－上海復旦大学のアンケート調査より－」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集 12』筑波大学留学生センター 63-87
2. ー（1999）「日本語学習についての中国人学習者のBELIEFS－香港城市大学のアンケート調査から分かったこと－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集 14』筑波大学留学生センター 163-177
3. 岡崎 眸（1999）「学習者と教師の持つ言語学習についての確信」宮崎里司・J, V, ネウストブニー共編『日本語教育と日本語学習』くろしお出版 147-158
4. 片桐準二（2005）「フィリピンにおける日本語学習者の言

- 語学習 Beliefs」『日本語教育紀要』第 1 号 国際交流基金 85-101
5. 齋藤ひろみ（1996）「日本語学習者と教師のビリーフスー自律的学習に関わるビリーフスの調査を通して」『言語文化と日本語教育』 お茶の水女子大学日本言語文化学研究会 58-69
6. 橋本洋二（1993）「言語学習についての BELIEFS 把握のための試みー BALLI を用いて」『筑大学留学生センター日本語教育論集 8』筑波大学留学生センター 215-241

り ゆうびん／北京日本学研究センター 修士課程 2 年
liyuminjp@yahoo.co.jp